SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION

時計台前から

vol.91
Spring
2020

多文化共生事業【P2】

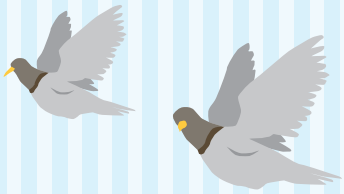
さっぽろ外国人相談窓口オープン　ほか

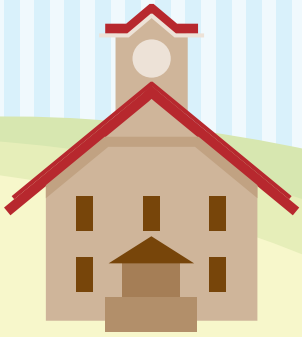
国際理解【P5】

札幌圏大学国際交流フォーラム設立30周年記念講演会 開催　ほか

コンベンションビューロー【P8】

SDGs未来都市札幌×APPChE2019　ほか





ビジョン

わたしたちは、みんなにやさしく魅力と活力あふれる
国際都市札幌を創造します。

ミッション

Ⅰ. 様々な人、文化、情報が集まり、繋がり、広がる拠点となります。
Ⅱ. 市民主体の多文化交流をプロデュースします。
Ⅲ. MICE を通じた人々の交流と地域経済の活性化を推進します。

さっぽろ外国人相談窓口 SAPPORO HELP DESK for Foreign Residents をオープンしました！

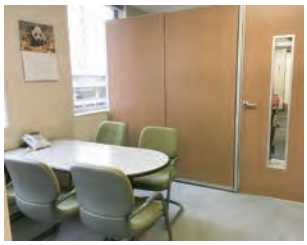
国際プラザは、2019年11月28日（木）に、「さっぽろ外国人相談窓口（SAPPORO HELP DESK for Foreign Residents）」を開設しました。これは、増加する外国人生活者の不安や問題に対応するため札幌市からの委託により行うものです。札幌に住む外国人が、生活の中で困っていること、不安に思っていることを解決できるように支援を行います。

相談窓口では、英語と中国語で対応可能な国際プラザ職員4名が相談に対応し、その他、電話通訳サービスにより、韓国語、ベトナム語、タガログ語、ロシア語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、フランス語、ネパール語でも対応できる体制を整えています。電話やEメールによる相談も受け付けます（詳細は裏表紙をご覧ください）。

これまでのところ、出産・子育てに関する相談が最も多く寄せられているほか、在留資格に関することや労働環境についての相談も多く見られます。今後も利用者が適切な情報や行政サービスを受けることができるように、関係機関と連携を図りながら外国人からの相談に対応していきます。

「さっぽろ外国人相談窓口」に併設された交流サロンは、一部レイアウトが変わりましたが、これまで通り、月曜日から土曜日9:00-17:30どなたでもご利用できます。各言語でフリートークをする「レッツトークプログラム」や「メッセージボード」などもこれまで同様に提供しています。英字新聞や中国語の新聞、多言語によるパンフレット等も配架していますので、ぜひ足を運んでみてください。

相談対応を行うカウンター


プライバシーに配慮が必要な相談のための個室

相談窓口が併設する交流サロン

相談を受け付けるカウンター

さっぽろコミュニティ通訳派遣事業

コミュニティ通訳とは、公共サービスの窓口などで起こる言葉やコミュニケーションの壁を解消する通訳のことで、2016年度から、研修を積んだ通訳者を学校や保育所、区役所窓口等に派遣しています。2018年度の派遣件数は、前年度比2.5倍となる76件で、今年度もそれを大きく上回るペースで派遣を行っています（2020年2月末現在で84件）。

逐次通訳練習会の様子

このニーズの高まりを受け、今年度のはじめに新たな担い手を募集し、5月に登録説明会を2回開催しました。母子保健などの制度についての研修や逐次通訳練習会を経て、12月に通訳スキルチェックを行った結果、新たに英語7名、中国語1名の方が即戦力として登録されることになりました。

これにより、通訳登録者数は、英語18名、中国語3名、ロシア語2名、ベトナム語3名、ミャンマー語1名、タイ語1名となりました（2020年2月末現在）。今後も依頼が増えることが予想されるため、ますますの体制強化に努めて参ります。

当制度についてのお問い合わせは
さっぽろコミュニティ通訳制度担当
TEL (011)211-2105
メール community@plaza-sapporo.or.jp

外国人と“やさしい日本語”でコミュニケーション

一般社団法人北海道日本語センターの協力により、1月25日(土)「やさしい日本語」のセミナーが開催され、市民ら約100名が参加しました。

札幌市に住む外国人は年々増加傾向にあり、学校や職場、住まいの地域に普通に見られる存在となっています。しかし日本人の中には「英語ができないと話しかけられない」といった意識も根強くあるようです。

このセミナーでは、「やさしい日本語」を使用することで外国人とコミュニケーションがとれることを学びました。例えば、「休日」の代わりに「休みの日」と簡単な語句を選ぶ、敬語は使わない、はさみの法則（はっきり・最後まで・短く言うこと）など、やさしい日本語の使い方を学びました。また、やさしい英語の使い方も併せて学びました。

後半は、北大の留学生14名と日本語教師の方が加わり、グループごとに実践で学びました。ごみの分別方法や収集日を「やさしい日本語」を使って伝えることに挑戦しました。参加者からは「やさしい日本語は、日本人にとっては少し難しい。」「話すときのポイントが分かって役に立った。」などの声が聞かれました。また、留学生からは「ゆっくりと、短く話してくれたら分かりやすい。日本語が通じたら、もっと勉強したいと思う。」と感想が述べられました。

医療英語・通訳セミナー

国際プラザでは、日本語を十分に使用・理解できない外国人住民や観光客が安心して医療機関を受診できるよう、サポートする人材育成の取組みを続けています。

11月4日（月・振休）、国際医療福祉大学医学部准教授である押味貴之氏をお迎えして医療通訳セミナー初級編と中上級編を開催しました。

医療通訳には、語学力や医療知識だけでなく、文化的な背景などへの配慮も習得しておくことが重要であることを学びました。また、中上級編では、様々な症状を訴える外国人模擬患者の診察を想定したロールプレイを行い、実践的な通訳訓練も実施しました。

11月17日（日）には、特定非営利活動法人SEMIさっぽろ副代表理事北間砂織氏を講師に、医療従事者向け「病院で働く人のための簡単な英会話入門」を実施しました。

問診票の記入や院内を案内する際に使用できる簡単な表現などを学び、実際にロールプレイを交えて練習を行いました。また、外国人患者にとって宗教や食事などが医療機関を受診する上で不安材料になることなど、具体的な例を用いて紹介していただきました。

2種類のセミナー参加者からは、医療通訳人材として活躍できるよう勉強を続けたい、実際に職場で役立てたいなど、前向きな感想が寄せられました。

11/4 セミナーの様子

11/17 ロールプレイの様子

外国人のための子育てセミナー＆相談会

国際プラザでは、札幌で出産・育児をする外国人及び外国にルーツをもつお母さん・お父さんを対象に年3回、「外国人のための子育てセミナー＆相談会」を開催しています。

このセミナーでは札幌で子育てに役立つ情報を提供し、合わせて日頃感じている疑問や不安を解消していただけるよう専門家に相談できる相談会も実施しています。

今年度2回目は、「子どもを保育施設に預けるには」（10月開催）と題し、翌年春の入園申請時期に合わせて、札幌市の保育施設について仕組みや申込方法などの説明を行いました。

12月には、雪の多い札幌で楽しみながら冬を過ごしてもらえるよう、子どもの衣服や遊び方、冬に多い感染症について説明しました。お話の後は、牛乳パックを使った簡単なおもちゃを作成したり、参加者同士で疑問を共有する時間を設けました。

参加者からは、今できることは何か、どのような準備が必要かといった具体的な内容を知ることができ、大変役に立ったとのご意見をいただきました。

これからも外国人住民の方たちが安心して札幌での子育てを楽しめるよう、役立つ情報をお届けしていく予定です。

※この事業は、NPO法人SEMIさっぽろ、SCI（札幌中国語医療通訳グループ）にご協力いただき、日本語、英語、中国 の3ヶ国語で実施しました。

外国人のための専門家相談会＆セミナー

国際プラザでは、北海道に住む外国人を対象に、無料の専門家相談会を年間６回開催しています。相談会では、行政書士、弁護士、税理士に、在留資格･職場のトラブル･国際結婚・離婚・相続など、外国人が生活する中で直面する問題や手続きについて個別に相談することができます。

また、相談の多いテーマについてセミナーも開催しています。12 月には行政書士によるビザセミナーを開催し、日本で暮らすうえで知っておきたいビザの手続きについて、結婚・離婚、出生、転職、引越しなど、暮らしの様々な局面ごとに解説。また、２月には税理士による確定申告セミナーを開催しました。

2020 年度の相談会とセミナーの予定は、国際プラザウェブサイトでご確認ください。

ビザセミナーの様子

共催:北海道在留手続協議会、外国人法律支援ネットワーク
協力:北海道税理士会

SAPPOROこども特派員2020

在住外国人の取材をとおし多文化共生について学ぶ

12 月８日（日）から１月 12 日（日）にわたり、市内の小学６年生 33 名が札幌に住む外国人に、札幌での暮らしについて「こども特派員」としてインタビューし、札幌を国や文化を越えてみんなにやさしい「多文化共生のまち」にする方法について考えました。

本事業の実施に当たっては、公募で集まった大学生 11 名が、インタビューへの同行や、ディスカッション、発表資料作成の支援など、事業を通してこどもたちをサポートしました。

ミーティング風景

こどもたちはワークショップを通して多文化共生についてのそれぞれのイメージを膨らませたのち、インタビュー先の候補から訪問先を自ら選択、５つのチームに分かれて、留学生、語学講師、飲食店経営者など様々な立場で札幌に暮らす外国人を訪問・取材しました。

その後、取材して学んだ内容をもとにチームで話し合いを重ね、1 月 12 日（日）には札幌国際ビル８階の国際ホールにて、集まった 80 名を超える来場者へ向けて、取材時に iPad を使って撮影した動画も交えながら成果を発表。普段の生活や災害時など外国人が情報弱者となることを踏まえ、情報提供の方法や多国語併記などを提案。また、美しい街並みや、観光資源など外国人目線での札幌の様々な

札幌コンサートホールKitaraのオルガン奏者を取材

「いいところ」を聞いて、それらをもっと拡大するなど、チームごとに個性的なアイディアを発表しました。発表のあとには、考えを共有して学びあう「ダイアログ」に異なるチームの特派員、大学生、来場者が参加。多文化共生についての学びをさらに深めました。

こどもたちからは、「色々な国や文化の人と交流できた」「発表したアイディアを実践したい」などの感想が寄せられ、今後の札幌市の国際化を担っていく力強さが感じられました。

市民へ向けて成果を発表

札幌圏大学国際交流フォーラム設立30周年記念講演会 開催

中垣俊之氏

1月10日（金）、札幌圏大学国際交流フォーラム・札幌国際プラザの共催による「札幌圏大学国際交流フォーラム設立30周年記念講演会」が、札幌エルプラザを会場に開催されました。札幌国際プラザが事務局を担う同フォーラムは、大学の国際化や国際交流支援を主目的に1989年7月に設立され、現在21大学・短大が加盟しています。その設立30周年の節目を記念して、道内在住の中・高・大学生を主対象に、“世界を見てきた私たちから、世界を目指す君たちへ”と題し、中垣俊之氏（北海道大学電子科学研究所所長・教授、イグノーベル賞受賞者）、田中賢介氏（北海道日本ハムファイターズ元選手、現在はスペシャルアドバイザー）にご講演いただきました。訪れた聴衆150名からは、チャット形式で参加できる質問コーナーを通じて「今までで一番苦しかったことは、また、それをどのように乗り越えられましたか？」「平常心を保つには？」など多くの質問やメッセージが寄せられ、それぞれ講師から丁寧にお答えがありました。

田中賢介氏

聴衆

アメリカンコーナー札幌
英文履歴書・インタビューワークショップ

国際プラザは、在札幌米国総領事館と提携し、交流サロン内にアメリカの歴史、文化等を知ることができる書籍、DVDなどを配架している他、幅広い世代にご参加いただけるイベントやセミナーを開催しています。

2月13日(木)・18日(火)・22日(土)の3日間、外資系企業や海外就職を目指す若者へのキャリア支援の一環として、北海学園大学講師のブリックリン・ゼフ博士をお招きし、「英文履歴書・インタビューワークショップ」を開催しました。

ワークショップには、海外での就職を希望する社会人や海外でのインターンシッププログラムへの参加を希望する大学生など、様々な目標を持った参加者が集まり、英語での履歴書の書き方、面接の準備の仕方と受け方、ビジネス系のソーシャルメディアの活用方法など、海外での就職活動には欠かせないスキルを身に着けていきました。

参加者からは「仕事で役に立つ英語を身に着けることができて、大変良い経験になった」との感想が寄せられ、それぞれの目標に向けた一歩となったようです。

これからも国際プラザは在札幌米国総領事館と協力し、アメリカへの理解・関心を促進するイベント・セミナーを実施していきます。

ワークショップの様子

アメリカンコーナー札幌

国際プラザ 交流サロンにあるアメリカンコーナー札幌には、アメリカに関する日本語書籍約300冊、英文雑誌10タイトル、絵本約100冊、DVD約50タイトル、CD約60タイトルがあり、交流サロン内で自由に利用できます。お気軽にお立ち寄りください。

アメリカンコーナー札幌

※館外への貸出は行っていません。

札幌・ポートランド姉妹都市提携60周年記念

ポートランド親善訪問団来札

2019年、札幌市と米国オレゴン州ポートランド市は、1959年の姉妹都市提携から60周年を迎えました。これを記念し、10月23日（水）から27日（日）まで、ポートランド市長を含む46名の親善訪問団が札幌を訪れ、札幌国際プラザ及び札幌姉妹都市協会では様々な記念行事を実施しました。

10月25日（金）には、札幌市主催の記念式典と記念レセプションが行われ、秋元市長とポートランド市ウィーラー市長、さらにポートランド親善訪問団、姉妹都市交流に貢献してきた市民、並びに関係団体が参加。両市の友好関係の発展に向けて思いを新たにするとともに、長年にわたり築かれた親交の歴史を振り返り、節目となる60周年を祝いました。

また、10月26日（土）には、ポートランドのまちづくりに精通する講師、滞在経験のある大学生、両市で地域貢献活動を行う人々を迎えて「米国・ポートランドを知るセミナー～わたしの街、わたしのくらし～」を開催し、市民のみなさんにより広くポートランドを知ってもらう機会としました。

セミナー後のフェアウェルパーティーでは、両市の交流に携わってきた市民や親善訪問団来札で新たに親交を結んだ人々が、ポートランドのみなさんと最後の時間を過ごしました。

親善訪問団参加者は、市民ボランティア協力のもと行われた日本文化体験やホームビジットにも参加し、札幌市民との交流を深め、短い札幌滞在を楽しみました。

札幌市とポートランド市は、長い姉妹都市交流の歴史を経て、教育、文化、スポーツなど様々な交流が進んでおります。今後も両市の友好関係が続き、さらなる交流の広がりが期待されます。

ウィーラー市長ほか着付け体験

ポートランドを知るセミナー

ピケット領事の行ったつもりでポートランド

2月8日（土）、“ピケット領事のやさしい英語で聞く「行ったつもりでポートランド2020」”を開催しました。ポートランド市は、全米一住みたい街に選ばれるほど、人気の高い街です。「行ったつもりでポートランド」は、そんな魅力あふれるポートランドの街を講師が案内役となり、ツアー形式でご紹介するセミナーです。今回は、案内役にポートランド在住経験のある在札幌米国総領事館のロバート・ピケット領事をお迎えして行いました。

ピケット領事は、ポートランド国際空港から始まり、ローズガーデン、日本庭園などの観光地をめぐりながら、地元の人たちに人気の食べ物、自然豊かな美しい街並みを写真や動画を使って案内して下さいました。

参加者からは、英語がわかりやすくポートランドに行ってみたくなったなどの感想が寄せられ、ポートランドの魅力を存分に伝えるセミナーとなりました。

ピケット領事ポートランドセミナー

2020年は姉妹・友好3都市との提携記念の年

今年、札幌市は中国の瀋陽市、ロシアのノボシビルスク市、韓国の大田広域市という3つの都市と、それぞれ40周年、30周年、10周年の姉妹・友好都市提携記念の年を迎えます。

札幌市及び国際プラザでは、現在、長年の親交を記念するための交流事業等を関係各方面と検討・調整しています。そして確定し次第、順次「プラザだより」やウェブページなどに紹介していく予定です。できるだけ多くのみなさんに関連事業に参加していただき、姉妹・友好都市の一層の交流発展につながるよう計画していますので、ぜひご期待ください。

瀋陽市／中国

郎朗（らんらん）ピアノ広場

ノボシビルスク市／ロシア

ノボシビルスク誕生記念公園

大田広域市／韓国

ウヌジョンイ文化通

北海道の魅力を発信！浦河町2-Day バスツアー

北海道開発協会との共催で実施する地域情報発信支援事業の一環として、10月26日（土）～27日（日）に留学生とその家族8カ国20名が浦河町を訪れました。

参加者は、アイヌ料理やムックリ演奏体験、民族衣装試着や儀式「カムイノミ」の見学をとおしてアイヌ文化に触れ、また、乗馬体験、乗馬療育（ホースセラピー）に関する講話、育成牧場見学を通じ、同町の軽種馬産業を学びました。

他にも、参加者出身地の料理作り、けん玉や折り紙などの日本の遊びを通じて地元の人と交流し、その様子などをSNSで発信していました。

今後も、留学生が北海道の多様な文化を学ぶ機会を提供していきます。

アイヌ民族衣装を着て

JRA日高育成牧場にて

世界探検まつり2019　World Exploration Festival 2019

12月15日（土）に、札幌留学生交流センターで「世界探検まつり2019」を開催しました。このイベントは、センターに住む留学生が中心となって、地域住民に出身地の文化や自らの経験を紹介し、交流を深めるために年に一度実施しています。

手作りデザートの試食

歌やダンス、楽器演奏を発表したり、語学レッスンやワークショップを開いたり、料理やデザートを振舞ったりと、留学生はさまざまな催し物を担当。会場には出身地の魅力や旅の思い出を伝える手作りポスターが飾られ、子どもから大人まで約170名の留学生と地域住民が楽しみました。また、地元町内会や外部団体のご協力で、留学生や来場者は、餅つきや茶道、囲碁体験など、日本の文化も体験。

水墨画のワークショップ

発表では、ロシア民謡「カチューシャ」をロシア出身の留学生がロシア語で歌うと、中国出身の留学生が中国語で、町内会長が日本語で同曲を歌うなど、まつり全体を通して地元住民とともに作りあげた、つながりを感じるイベントとなりました。

中国の歌の発表

留学生交流センターには日本人学生も住んでいる!? ～RA～

RA（レジデント・アシスタント）とは?

令和元年度RAの3人

当センターに住んでいる日本人学生スタッフのこと。

RAたちは、留学生やその家族と共に暮らしながら、生活上の相談に乗るなど、留学生らが安心して日常生活を送ることができるようにサポートしています。

また、下記のように1年をとおして様々なイベントを企画・開催して、居住者同士が交流を深める機会をつくり、札幌での生活を楽しむことができるように手助けする役割も担っています。

新年交流会

子どもとママの会

火鍋パーティー

当センターやRAについて詳しくは、留学生交流センターのホームページをご覧ください。

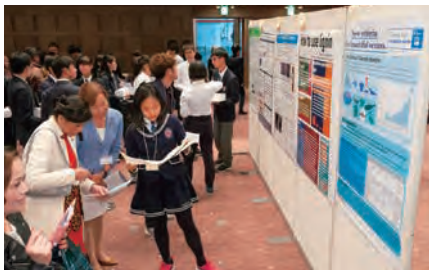
https://www.plaza-sapporo.or.jp/sisc/

第18回アジア太平洋化学工学連合会議（APPChE 2019）

―世界の研究者・技術者と市民がSDGs（持続可能な開発目標）への貢献について議論する―

第18回アジア太平洋化学工学連合会議（APCChE 2019）が、昨年9月23日～27日札幌コンベンションセンターで開催されました。日本での開催は15年ぶり2回目。世界31カ国・地域より1,800名の研究者や技術者が集い、1,500件の研究発表を行いました。この会議は、2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」への化学工学の貢献をメインテーマとし、専門家のみならず、市民とともにSDGs達成に向けた活発な議論が展開されました。

会期中の「学生プログラム：若者からのSDGsについての研究提案」では、7カ国の大学生26チームに加え、札幌開成中等教育学校の4チームと札幌日大高校の1チームが英語で発表を行ったほか、研究内容をポスター発表しました。また、国際連合工業開発機関（UNIDO）と共催の「APCChE-UNIDO特別シンポジウム」では、札幌市によるSDGs未来都市としての取り組みや環境技術・製品開発を行う市内企業による実践事例が紹介されました。会議最終日には「札幌宣言」が採択され、アジア太平洋及び日本における化学工学と化学産業のSDGsへの貢献の決意が示されました。



ポスターセッションで発表する高校生

国際プラザ・コンベンションビューローは、国際会議の開催を通じて、SDGs達成をはじめとするサステナビリティ向上に取り組む主催者を積極的にサポートしております。また、市内企業や次世代を担う若手が、世界トップクラスの研究者と議論する機会をつくることで産業の発展や若手育成に寄与し都市力を強化するとともに、MICE誘致力向上につなげていきたいと思います。

北海道MICEのブランドロゴ・タグラインが完成

―北海道ブランドを活かした誘致へ―

国際プラザ・コンベンションビューローは、北海道のMICE誘致の枠組み「北海道MICE誘致推進協議会」に加盟しており、道内の主要MICE都市や北海道と連携し、国内プロモーションやwebマーケティングを中心に誘致活動を行っています。

同協議会では北海道MICEの魅力を国内外に発信するため、2019年度、北海道MICEの魅力を一目で表すブランドロゴ・タグラインを設定しました。

ロゴのモチーフはアイヌ文様（シク）で、目や魔除けを意味すると言われています。全体デザインはHOKKAIDOのAを本州に見立て北海道の地形を表しており、発見やひらめき、雪、星（北極星）などをイメージしています。タグラインであるCreation from Landscapeは北海道が持つ特有の豊かな自然や食で、活力を得てクリエイティブな発想へつなげ、社会の発展に貢献したいという願いが込められています。

北海道には、自然との共生を主眼とするアイヌ民族が定住し、独自の文化を築き上げてきました。自然との共生はサステナビリティを実現するための重要なテーマの一つです。MICE開催地においても持続可能性が求められる中、北海道の稀有な自然環境を活かしながらMICEを誘致し、同時にサステイナブルな開催地を目指して行きます。

HOKKAIDO MICE
promotion committee

ブランドロゴ

Creation from Landscape

タグライン

フィリピン市場へのプロモーション

札幌を舞台にしたフィリピン映画「Kita Kita」のヒットにより、フィリピン現地では札幌人気が高まっています。また、2018年12月にはマニラ―札幌間の直行便も就航するなど、フィリピンからのインセンティブツアー誘致への追い風が吹いています。国際プラザ・コンベンションビューローでもこの機を活かすため、現地でのプロモーションやFAMトリップの視察支援を行いました。フィリピンからのインセンティブツアーに人気の冬季・春季に向けて、ツアー造成を図っていきます。

フィリピン・インセンティブセミナー商談会

FAMトリップでのチームビルディング体験

欧州市場へのアプローチ

昨年12月、札幌―ヘルシンキ間のフィンエアー直行便が就航、欧州のハブであるヘルシンキ空港と新千歳空港が、わずか9時間の飛行時間で結ばれました。

現在のところ、札幌国際プラザ・コンベンションビューローでのインセンティブ受入実績の多くは、東アジアや東南アジア諸国からであり、欧州からはこれからという状況です。今年度は、直行便就航をきっかけに欧州市場へ積極的なアプローチを展開しました。

IBTM world出展

スペイン・バルセロナ開催のIBTM worldは、欧州市場における2大見本市のひとつで、同地域のMICEバイヤーが多く集まることで知られています。11月19日～21日の期間、昨年度に引き続き出展をし、札幌の認知度向上に向けたPRやバイヤーとのコネクション作りを行いました。

日本への送客経験が無い東欧・北欧のバイヤーも熱心に情報を収集しており、関心の高さがうかがえました。

IBTM World会場の様子

フランスMICEバイヤー招請事業

日本政府観光局（JNTO）との共催より、2月2日～7日の期間、フランスからインセンティブプランナー 5人を招請し、ファムトリップを実施しました。東京・京都・札幌の3都市を巡り、日本の様々な魅力を体験してもらうという趣旨のもと、メガシティ東京、伝統的な京都、雪国の札幌とそれぞれの魅力をアピールしました。

盛りだくさんの行程であったため、札幌滞在は、2月5日～7日という短い期間でしたが、市内ホテルやユニークベニュー視察に加えて、「さっぽろ雪まつり」を堪能したほか、北海道の新鮮な海産物を活かした寿司握り体験も実施。招請者からも大変喜ばれ、高評価をいただきました。

雪まつり会場を視察

寿司握り体験

韓国へのインセンティブツアー誘致プロモーション

商談の様子

8月、韓国ソウルで開催されたJNTO主催のインセンティブツアー商談会「ソウルインセンティブマート2019」に参加いたしました。

日韓の政治情勢が悪化している中での開催となり、日本へのインセンティブツアー開催にも打撃を受けている厳しい状況でしたが、韓国国内の雰囲気が収まれば再び日本へのインセンティブツアーが回復するだろうという見通しが参加者間でも共有出来たため、今後情勢が回復した際にプロモーションを行えるような体制を整えておくことが重要であると考えています。

中国のMICE専門誌から表彰

国際プラザ・コンベンションビューローでは中華圏へのプロモーションを積極的に行っています。

この度、中国最大のMICE専門誌『MICE China』が中国内外の都市から選ぶ2019年度MICE Chinaベストマーケティング賞のひとつに、当ビューローが選ばれました。

去る10月18日（金）にマカオで行われた授賞式では、岸理事長のメッセージビデオを上映。受賞への感謝と、今後も四季折々の札幌の魅力、MICEシティとしての卓越した機能を発信し、MICEの開催をお待ちしていることを伝えました。

音楽を使ったチームビルディング・プログラムが札幌に初上陸！

国際プラザ・コンベンションビューローでは、海外からのインセンティブツアー（企業報奨旅行）の更なる誘致に向け、チームビルディング・プログラムの開発に力を入れています。

今回は、札幌に初上陸の音楽を使ったシンガポールの人気チームビルディング・プログラム「チームミュージック」をメニューに加えました。多数の受賞歴を持つこのプログラムでは、音楽経験がない人でもプロのファシリテーターの指導のもと、ロックバンドさながらの演奏ができます。一曲をチーム全員で作り上げることを通じて、楽器に触れることや音を合わせることを楽しみながら、役割分担やチームワークの重要性を学べるプログラムです。

MICEの需要が高まっている昨今、札幌がMICEの目的地として魅力あふれる地となるよう、今後も多様なプログラムを取り入れていきます。

MICEのポテンシャルが高く、期待されるニセコエリア

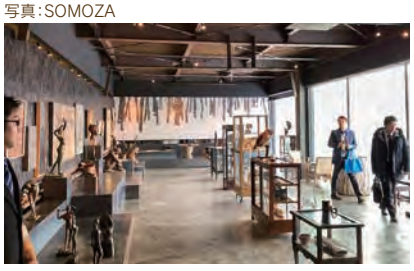
外国人観光客に人気のニセコエリアでは、今、新たなMICE受入環境の整備が急速なスピードで広がっています。

本年1月に開業したパークハイアットニセコHANAZONOは、名峰・羊蹄山を望む壮大なロケーションに誕生したラグジュアリーリゾートで、昨年10月には、オープン前でありながら、G20観光大臣会合開催を成功させました。イベントビレッジエリアには、最先端のテクノロジーと、屋内外のレセプションエリア、ショーキッチンを備え、多様なリクエストに対応可能であり、今後、高いブランド力を活かしたMICEイベントの開催が期待できます。

森に囲まれるSOMOZAは、日本在住26年のイギリス写真家がプロデュースした究極な和の空間です。栃木県から移築した150年の古民家には、日本独特の文化、伝統、匠の技、素晴らしい景観が1箇所に集められています。イベントホール兼用のギャラリー、道産食材を楽しめるレストラン、屋根裏に隠れた茶室などは、企業ミーティングなどのMICEイベントにとって、日本の良さに触れる魅力的な施設です。

そのほか、リニューアルした昭和初期の産業遺産であるニセコ中央倉庫群など、MICE受け入れの機運が高まるニセコエリアをはじめ、近郊の小樽、余市・仁木など、札幌は、広域連携のもと、特別感のあるMICEの企画提案を強化していきたいと思っています。

写真：SOMOZA



パークハイアットニセコHANAZONO

SGSCの取り組み －ウクライナ視察団来日－

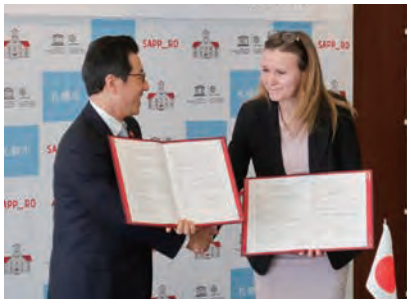
2020年1月27日から30日までの間、東京2020パラリンピックに出場するウクライナ男子ゴールボールチームの事前合宿にかかる基本合意書締結等のため、ウクライナ視覚障がい者スポーツ連盟（以下「SFBU」とする）の視察団が来日しました。

合宿予定場所の東海大学では、体育館やトレーニングジムの設備等を視察し、また、北海道札幌視覚支援学校や札幌開成中等教育学校では、ウクライナについての講話やゴールボール体験を通じた交流を実施しました。

今回の視察団との基本合意書締結は、札幌市が、障がいの有無、年齢、性別にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合う共生社会の実現のための一環として、共生社会ホストタウンの登録を目指しているなかで、札幌市の「選手たちと市民、とりわけ子どもたちとの交流機会を設けることで、共生のまちの実現に取り組んでいきたい」という思いと、SFBUの「共通の目標は共生社会を実現し、発展させること」という意向が一致したことにより、ゴールボールという競技でウクライナの方々を誘致することに繋がりました。

さっぽろグローバルスポーツコミッション（以下「SGSC」とする）は、視察団の来日にあたり、ビザ申請を支援するとともに、施設の視察や、学校との交流のための調整等を行いました。

今後、ウクライナ男子ゴールボールチームは、6月の下旬から7月の上旬頃、札幌市で事前合宿や地域交流を実施する予定であり、SGSCでは引き続き合宿受入等に係る支援を行います。


基本合意書締結式

札幌視覚支援学校での交流

アジア初開催のスポーツサミットで札幌をPR

2019年11月、オリンピック開催実績のある国を交えて、オリンピックレガシーの活用やスポーツを活かしたまちづくりの事例を各国と共有する「スマートシティーズ＆スポーツサミット」が東京にて開催されました。今回は、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を控えている日本がホストとなり、アジア初となる記念すべき開催となりました。

アディショナルトリップ（自治体視察）では、1972年冬季オリンピック開催地である札幌にIOC（国際オリンピック委員会）やスポーツ関係者が来札し、大倉山ジャンプ競技場や札幌オリンピックミュージアムなど、札幌の街並を肌で感じ体感していただく視察となりました。

また、東京会場のランチレセプションでは、来札されていない参加者に向けて、特大の写真パネルの展示を行い、冬の札幌を会場で演出し、ウィンタースポーツシティブランド札幌の魅力を発信しました。今後も2030年札幌冬季オリンピック・パラリンピック招致に向けて、札幌の素晴らしさを世界に伝えていきたいと思います。

ランチレセプション

ヘルシンキでの北海道スキー環境のプロモーション活動

2019年11月にフィンランドで行われたウインタースポーツ博覧会「Go Expo Winter」に参加しました。博覧会では、欧州だけでなく、北米などのスキー関連の情報発信などが各ブースで行われており、そこで札幌・北海道のスキー環境・観光情報の発信を行いました。

欧州では、スキー愛好者が多くいるのですが、スキーができる環境は主にアルプス周辺に集中しており、他の山脈では標高が低かったり、積雪が少なかったりとスキーが満足にできる環境は少ないようです。

北海道の環境は欧州に比べ、とても質の良い雪がたくさん降りますが、海外と比べると北海道はそれほど高い山はなく、豊富に雪があると思われていません。しかし、実際に北海道の積雪は世界でもトップクラスの積雪量です。この環境や観光情報のプロモーションを行う必要性を感じました。

2019年12月に新千歳ヘルシンキ間が就航し、フィンランドだけでなく欧州から北海道へのアクセスが良くなり、多くの欧州の方が来道されております。さらに北海道に訪れる観光客が増えるように、PR活動をしてまいります。

事務局移転について

2020年4月1日より「さっぽろグローバルスポーツコミッション」の事務局は、（公財）札幌国際プラザより（一財）さっぽろ健康スポーツ財団へ移ることとなりました。

さっぽろ外国人相談窓口
SAPPORO HELP DESK for Foreign Residents／札幌市外国人支援咨询窗口

札幌に住む外国人が、生活の中で困っていることを解決できるようにお手伝いします。外国人本人だけでなく、受入れ機関や支援者からのご相談も受け付けます。相談は無料です。

【対応時間】月曜日～金曜日　9:30 ～ 17:00
※祝日、年末年始（12/29-1/3）はお休みです。
【場　　所】札幌国際プラザ内
【対応言語】（全12言語）
相談員による対応：やさしい日本語、英語、中国語
電話通訳サービスを利用した対応：
9:30 ～ 17:00　英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語
10:00 ～ 17:00　ベトナム語、タガログ語、ロシア語、ネパール語、フランス語、タイ語
※電話通訳の利用は無料です。

Foreign residents who live in Sapporo are welcome to come consult about problems that they have encountered in their lives in Japan. Advice and support will be provided so that the consultee can be better prepared to solve problems by themselves.

【Hours of Operation】Monday to Friday 9:30AM~5PM
※Closed on national holidays and during the New Year's break (12/29-1/3).
【Place】Sapporo International Communication Plaza Foundation (3F MN Building, Kita 1-jo Nishi 3-chome, Chuo-Ku, Sapporo).
【Multilingual Support】(Up to 12 languages)
We have staff who can speak simple Japanese, English, and Chinese.
Other language support will be provided via telephone interpretation.
(9:30 AM ～ 5PM: English, Chinese, Korean, Spanish, Portuguese.)
(10:00 AM ～ 5PM: Vietnamese, Tagalog, Russian, Nepalese, French, Thai.)
※The use of telephone interpretation is for free.

住在札幌市的外国人如果在生活中有任何的困扰或不安，都可以来本中心咨询。中心的工作人员将尽量在您解决问题的过程中提供必要的帮助。
【可接待时间】周一～周五　9:30 ～ 17:00
※法定假日，年末年初（12/29 ～ 1/3）期间停止服务。
【地点】札幌市国际交流中心（札幌市中央区北１条西３丁目MN大楼３F）
【应对语言】（全12种语言）
窗口职员可应对的语言：简单易懂的日语，英语，中文。
通过电话翻译可应对的语言：
9:30 ～ 17:00　英语、中文、韩语、西班牙语、葡萄牙语。
10:00 ～ 17:00　越南语、菲律宾语、俄语、尼泊尔语、法语、泰语。
※电话翻译服务免费。

TEL: 011-211-3678　E-mail: soudan@plaza-sappporo.or.jp

札幌国際プラザフローラルアートグループ

フローラルアートグループは札幌国際プラザが任意団体として発足した 1987 年（昭和 62 年）、時を同じくして結成されました。その後 30 年以上にわたり、いけばなを通して国際交流を進める流派を超えた活動を継続されています。

交流サロンでは、温かいお心遣いのこもった四季折々の作品が、訪れる方をお迎えしています。また、特に外国の方にとっては、いけばなという日本の文化に接する貴重な場所となっていますので、交流サロンへいらした際は、ぜひ、美しい作品をご覧ください。

国際プラザ HP のブログからもご覧いただくことができます。
（http://plaza-flower.blogspot.com/）

札幌国際プラザ有料広告事業のご案内

札幌国際プラザが発行する機関誌「時計台前から」や、プラザホームページに企業などの広告を掲載できます。また、プラザ交流サロンＰＲコーナーに、チラシやパンフレットを配架することができます。

詳しくは**総務企画課（011-211-3670）**へお問い合わせ、またはプラザホームページをご覧ください。

広告媒体	プラザ賛助会員価格	一般価格
「時計台前から」1/8誌面1枠	20,000円	20,000円
バナー広告 （1枠・縦80×横220ピクセル）	1ヶ月7,000円～6ヶ月30,000円	1ヶ月15,000円～6ヶ月60,000円
交流サロンＰＲコーナー （A4・1ケース）	1ヶ月1,500円～12か月10,000円	1ヶ月2,000円～12か月15,000円

■ 編集・発行
公益財団法人 札幌国際プラザ
〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル 3F
Kita1 Nishi3,Chuo-ku,Sapporo 060-0001 JAPAN
TEL:011-211-3670　FAX:011-211-3673
URL：https://www.plaza-sapporo.or.jp　E-mail:sicpf@plaza-sapporo.or.jp

■ 印刷　株式会社 プリプレス・センター
北海道の 森林保全と環境への配慮のため、道産間伐材を原料にした用紙、植物油インキを使用して作成しています。